

# 野と林の近現代史

芒洋たる野(原野・草原)が広がっていた武蔵野

「昔の武蔵野は萱原の果てなき光景を以て絶類の美を鳴らして居たように言い伝えてあるが、今の武蔵野は林である。林は実に今の武蔵野の特色といっても宜しい。」

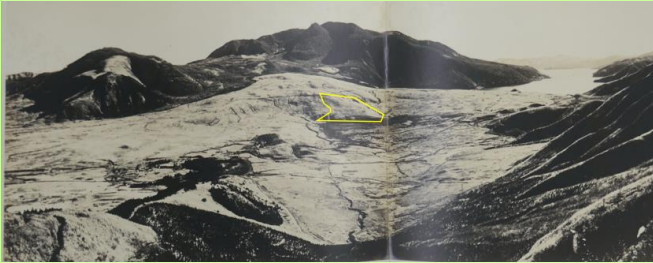
武蔵野、国木田独歩、1888(明治31)年



武蔵野図(横山大観、明治28)

広大な野が広がっていたかつての仙石原

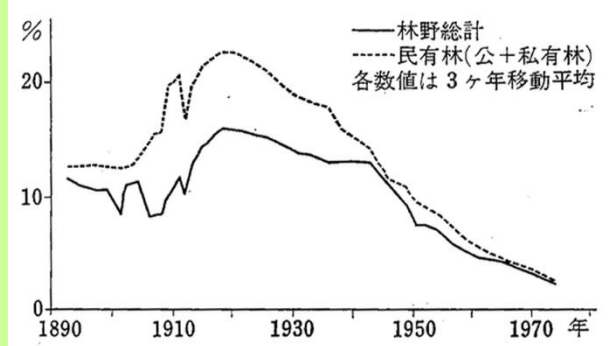
黄色い線で囲われた部分は、現在の仙石原草原の範囲です。



撮影年不明  
「大箱根」所収

## 原野率の推移

1920年代(大正10年前後)には、林野(森林+原野)の15%、民有林が多い集落周辺には25%近くの野(原野・草原)が広がっていました。現在の野は1%に減少しています。



土屋俊幸(1991)

人々が野を利用しなくなった



樹林化



他の土地利用への転用

➡ 生物文化多様性(生物や文化の豊かさ)の危機

野の  
生物文化  
多様性

希少生物(チョウ、植物)

伝統文化(火入れ、盆花)

観光資源(広々とした景観)



国土に広く見られた「野(原野・草原)」が明治以降の150年で大きく消失しました。野が辿った近現代史を通して、林野と私たちの関係について俯瞰します。

講師：八巻一成(関西支所)

# 野が減った理由

野はかつて、農業に欠かせないものでしたが、次第にその必要性が失われていきました。また、明治期以降に森林資源の培養が進められたことで、多くの野が人工林へと変わっていきました。

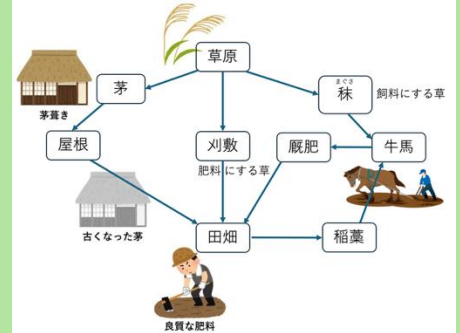
野が減った理由  
その1  
草原利用  
の衰退

肥料：化学肥料への転換

秣：使役牛馬の減少

畜産の衰退

茅葺き屋根の減少



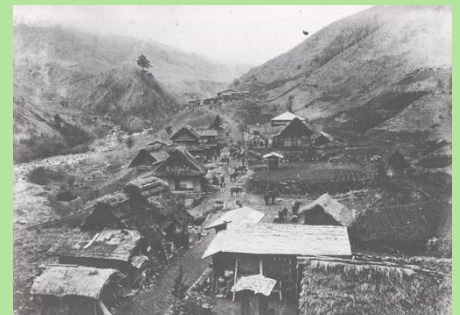
野はかつて農業に欠かせない存在でした。

野が減った理由  
その2  
森林の  
培養

林野への火入れ規制

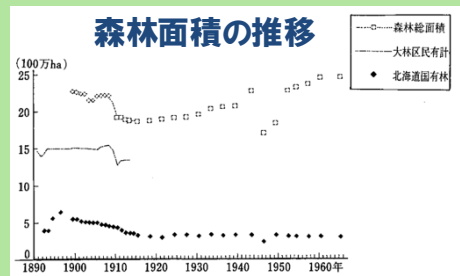
国土緑化

原野への植林



集落の一面に広がる野

明治以降の近代化政策の中で、森林資源の培養を目的として森林面積が増加した一方、野は減少の途を辿りました。



永田・井上・岡(1994)

なぜ野を  
維持する  
ことは難  
しい？

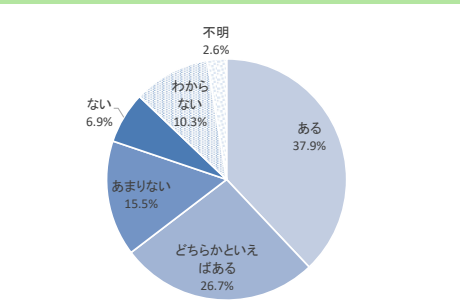
そもそも草原が使われなくなっている

担い手の多くが地元集落

管理する担い手の高齢化、人口減少

…人が何を守りたいと考えるかによって決まる

野の経済的メリット



八巻・高橋 (2021)

その一方で、残された野が持つ経済的価値も認識されています。